

養成医かわら版

NEWSLETTER



自己紹介

名前：安積(辻)麻亜子

勤務先：兵庫県立はりま姫路総合医療センター

診療科：産婦人科

卒 後：9 年目

経 歴：2017年 自治医科大学を卒業後、赤穂市民病院で初期研修、兵庫県立淡路医療センター産婦人科で2年間前期派遣、兵庫県立丹波医療センターで1年間前期派遣、神戸大学病院産婦人科、兵庫県立こども病院産科、加古川中央市民病院産婦人科で計2年間後期研修の後、兵庫県立はりま姫路総合医療センター産婦人科で現在2年間後期派遣。

【今までの研修生活について】

今まで沢山の病院研修を経験させて頂きましたが、どの病院でも大変有意義な研修を送らせていただきました。研修医・産婦人科として各病院の特徴やその時経験した事を列挙させて頂きますので参考になればと思います。長々とすみません。

赤穂市民病院 初期研修：温暖な気候で、人も穏やかでとても住みやすいです。各科の垣根がほぼなく、上の先生も優しく教育的な人が多いので、研修医で色んな学会発表や論文執筆等アカデミックな指導もたくさんして頂きました。初期のうちからそのような機会に恵まれたことは今でも本当に感謝しています。

淡路医療センター 初期派遣：食べ物が美味しくレジャーも事欠かない所です。島内完結医療を目指しており、各科充実していてフランクで経験豊富な先生が多く、色々相談もさせていただきやすい環境でした。産婦人科としては分娩が派遣病院の中では当時一番多く、助産師さんもベテランで、お産の楽しさ、大変さを学ばせていただきました。外来件数も多く、限られた時間内での診察要領やコスト等を現場で学ばせていただきました。各科専攻医も多く、みんなで休日や夜を楽しく過ごしたのもいい思い出です。

丹波医療センター 初期派遣：四季折々の美味しい食べ物が豊富で休日は農協やカフェに行ったり、夜は専攻医たちと飲んだり楽しく過ごしていました。病院は各科県養成医の大先輩が多数在籍しており本当に心強く、養成医で良かったと一番感じさせてくれた病院でした。産婦人科としては分娩件数はそこまで多くないので、逆に一つ一つのお産にじっくり向き合い助産師さん達とディスカッションができるのも良かったです。またとても良い指導医にも恵まれ、手術や診療の基礎を叩き込んで頂きました。

神戸大学病院 後期研修：今までの病院で経験した診療をブラッシュアップするととても良い機会でした。自分の代が養成医の産婦人科プログラムで6年目に産婦人科研修をストレートにさせてもらった初代でしたが、養成医だからということもなく、周囲と分け隔てなく研修させて頂きました。最近は大大学院へ進学する養成医の同期後輩も増え始め、各々のキャリアアップに合わせて選択できる点も大学病院の魅力だと思います。

こども病院：非常に高度な周産期新生児診療を経験させていただきました。今までの派遣先でも年に数例は遭遇する胎児奇形や重症な切迫早産等は絶対に地域で完結することはできません。そういった症例の実際の診療を経験させていただけたことは、今後地域でも必ず活かせる経験になりました。

加古川中央市民病院：周産期と良性婦人科疾患症例がかなり豊富で、毎日忙しく充実した日々を送らせていただきました。ママ医も多く、子育て中でもバリバリ常勤で当直にも多々入り自身のキャリアアップもしているアグレッシブな姿にととても感銘を受けました。

はりま姫路総合医療センター：周産期から良悪性婦人科疾患を幅広く研修できる病院で、とてもバランスが良いです。大きな病院なので、周産期は内科精神疾患合併妊婦が多く、他科と連携して診療にあたることが多く勉強になります。現在NICUはないので胎児奇形や重症な早産は姫路日赤などに搬送することが多いですが、周産期新生児連携病院であり周産期専門医としての研修を積むことができます。手術件数も豊富で昔ながらの経腔手術から腹腔鏡手術まで幅広く、今後ロボット手術も展開していく予定です。当直は救急麻酔科含め各科いてくれるので、夜間の重症対応には絶対的な安心感があります。先日夜間に今まで経験した中で最重症の周産期合併症を経験しましたが、母児共に一命を取り留めたのはこの病院だったからだと思っています。また婦人科は新しい抗がん剤治療も積極的に取り入れており緩和病棟もあるので、初診から手術、抗がん剤、緩和まで患者さんと向き合うことができます。このような病院は最近あまりないので、大変ではありますが非常に魅力的です。また全体的にスタッフがとても優しくトラブルにも一緒に柔軟に対応してくれるため、日々の診療が円滑にできている印象があります。

【現在の生活と今後について】

現在妊娠中で、妊娠27週で切迫早産になり早めに産休に入らせていただきました。はりま姫路総合医療センターの産科スタッフには様々な面で多大なる配慮をいただき、一生頭が上がりません。

産休中は安静にしながら勉強や手芸、引っ越しのリフォーム計画を立てつつ過ごしています。

自分は今年度で研修終了予定です。この仕事が好きなので、産後もキャリアアップを諦めず仕事を続けていきたいと思っていますが、産前産後何が起こるか分かりませんので、研修終了後の生活はまだ未定です。ただまた皆さんとどこかで一緒に仕事ができれば大変嬉しく思います。

【産婦人科養成医として】

養成医で産婦人科になったこと、後ろめたい気持ちが最初は正直ありました。産婦人科は診療対象が限られているので、地域に派遣される限られた医師の一人が産婦人科であることは、地域全体をみると大きなメリットにならないかもしれないと思っていたからです。しかし近年の診療報酬改定や働き方改革、分娩の保険診療への動きなどから、分娩に携わる病院は開業医含め減少しており、地域の妊婦は1-2時間以上かけて都心の病院へ健診やお産をしにいく必要が出てきています。地域中核病院の産婦人科診療の重要性は今後も高く、産婦人科養成医は今後も必要だと感じています。産婦人科のいいところは、様々な働き方がある点だと思います。分野も周産期、腫瘍、生殖内分泌、女性ライフスタイルなど多岐に渡りやりがいがあり、当直も多いので働くほどお給料も増え診療技術も上がっていくのがとても実感しやすい科です。また時短でも病棟管理しながら働く医師も多いですし、外来や健診のみの働き方を選ぶこともできます。産婦人科に興味のある方はぜひ選択肢の一つに加えていただけると幸いです。何か気になることがあればいつでも連絡ください。